

第6講座 古文

要点のまとめ

古文読解の基礎

(1) 歴史的かなづかい（現代かなづかいに直して読む）

① 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」↓「わ・い・う・え・お」

例 あはれ↓あわれ 思ふ↓思う かほ（顔）↓かお

② め・ゑ・を↓い・え・お

例 め（居）る↓いる こゑ（声）↓こえをとこ（男）↓おとこ

(2) 古語の意味

① 現代語と似た形で意味が違うもの

例 うつくし↓かわいい かなし↓せつないくらいいいらしい

なかなか↓かえって おどろく↓目がさめる

ののしる↓大声で騒ぐ あからさま↓ほんのちよつと

② 現在では使われていない言葉

例 ゆかし↓知りたいと心がひかれる げに↓ほんとうに

古文の読み取り方

内容を大まかにつかみ、作者の考えを読み取る。

(1) 言葉の意味の切れ目に注意する……何度も読み返して言葉の意味の

切れ目をとらえて、文章の大まかな内容をとらえる。音読をすると言

葉の意味の切れ目がとらえやすくなる。

(2) 敬語に注意する……だれのだれに対する敬語かを押さえて、人物関

係を読み取る。

(3) 作者のものの見方、感じ方をとらえる……随筆や日記では、作者が

どのような考え・感想を述べているかをとらえる。

ことわざ・故事成語

(1) 次の——線部を漢字に書き

直しなさい。

① 孫のたんじょうを祝う。

② 海がまんちようになる。

③ きそくを守る。

④ 今年はだんとうだ。

⑤ リーダーの指示にしたがう。

⑥ 完成にいたる。

(2) 次のことわざの中から似た

意味をもつものを二つずつ三

組選び、記号で答えなさい。

ア 果報は寝て待て

イ 鬼の居ぬ間に洗濯

ウ 医者の不養生

エ 泣きつ面にはち

オ 待てば海路の日和あり

カ 紺屋の白袴

キ 渡る世間に鬼はない

ク 弱り目にたたり目

(・) (・) (・) (・)

(3) 次の故事成語の意味をあと

から選び、記号で答えなさい。

① 蛇足 ② 画竜点睛

③ 李下に冠を正さず

ア 最後の大事な仕上げ。

イ 疑われるような行為は慎

むべきである。

ウ 無用の付け足し。

① () ② () ③ ()

1 次の古文と現代語訳を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔古文〕

うれしきもの、まだ見ぬ物語の一を見て、いみじうゆかしとのみ思ふが、残り見出でたる。さて、心おとりするやうもありかし。

人の破り捨てたる文を継ぎて見るに、おなじ続きをあまくだり見続けたる。いかならむと思ふ夢を見て、おそろしと胸つぶるるに、ことにもあらずあはせなしたる、いとうれし。

よき人の御前に、人々あまたさぶらふをり、昔ありける事にもあれ、今きこしめし、世にいひける事にもあれ、語らせ給ふを、我に御覧じ合はせてのたまはせたる、いとうれし。

〔現代語訳〕

うれしいもの。まだ読んだことのない物語の第一巻を読んで、たいそう続きを読みたいとばかり思っていたのが、そのあとの巻が見つかった（そんなとき）。ところが、それも、かえってがっかりする場合もあるのだ。

人が破り捨てた手紙を継ぎあわせて読んでいるとき、同じ続きを何行も読み続けられたの（はうれしい）。どうなることであろうと思われる夢を見て、おそろしいことだとひやひやしているときに、特別なことでもない夢判断をしてくれたのは、とてもうれしい。

高貴な人の御前で、人々が□お仕えしている際、昔あったことにせよ、また現在お聞きになった話で、いま世間で評判になっていることにせよ、お話しになるのに、私に目をお向けになって仰せられるのは、とてもうれしい。

問一 線a～cのうち、他と意味・用法の異なるものを一つ選び、

記号で答えなさい。

★問二 線①「きこしめ(す)」は尊敬を表す言葉ですが、何という言葉

葉の尊敬語ですか。二字で書きなさい。

★問三 線②「読みたい」とありますが、これは古文中のどの言葉に

あたりますか。三字で書き抜きなさい。

問四 線③「それも」とありますが、このあとに補う言葉として最

も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 読まないでいると

イ 読もうと読むまいと

ウ 読めそうもなくて

エ 読んでみると

★問五 □にあてはまる、古文中の「あまた」の現代語訳として最も

適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア おおぜい イ あちらこちら

ウ いつでも エ 用事もないのに

★問六 線④「お話しになる」のはどれですか。古文中から三字以内

で書き抜きなさい。

問七 「うれしきもの」の例は、古文中にいくつ挙げられていますか。

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

にしとみといふ所の山、絵よくかきたらむ屏風をたてならべたらむやうなり。片つかたは海、浜のさまも、寄せかへる波の景色も、いみじうおもしろし。もろこしが原といふ所も、砂子のいみじう白きを二三日行く。

「夏はやまと撫子のこくうすく錦をひけるやうになむ咲きたる。これは秋の末なれば見えぬ」といふに、なほところどころはうちこぼれつつ、あはれげに咲きわたれり。もろこしが原に、やまとなでしこも咲きけむこそなど、人々をかしがる。

*1 やまと撫子＝植物の名。

(菅原孝標女『更級日記』)

5

問一 Aさんたちは、古文を読んで次のような話し合いを行いました。

これを読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。

Aさん この古文は、山の描写から始まるね。

Bさん 冒頭の一文の「絵よくかきたらむ屏風をたてならべたらむやうなり」からは、筆者が感じたⅠが伝わってくるなあ。

Cさん そのあとは風景の描写が続くね。浜の様子や寄せては返す波の様子を「いみじうおもしろし」、つまり「たいそう美しく心ひかれる」と述べたあと、今度は別の風景について書いているよ。

Aさん 筆者は、秋の末になると見られないはずのⅡが、「うちこぼれつつ」、つまり、所々に「こぼれ残ったように」咲いている様子を見たんだね。

Bさん ところで、Ⅱが咲いていたのは「もろこしが原」だ

2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

二十日ばかりありて、この女の居たる方に、雀のいたく鳴く声しければ、「雀こそいたく鳴くなれ。*2 ありし雀の来るにやあらん」とおもひて、出でてみれば、この雀なり。「忘れず来たるこそあはれなれ」といふほどに、女の顔をうち見て、口より露ばかりの物を落とし置くやうにして、

よね。「もろこし」を漢字で書くと「唐土」だったと思う。

Cさん 「唐土」は中国のこと、日本は何と呼ばれていたかというところ、そうか！ 古文の最後で人々が「をかしがる」、つまりおもしろがっているのはⅢからなんだね。

(1) Ⅰにあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから

選び、記号で答えなさい。

ア 屏風にかかれた絵のすばらしさ

イ にしとみの景色のすばらしさ

ウ 立ち並んだ屏風のすばらしさ

(2) Ⅱにあてはまる言葉を文中から書き抜きなさい。

(3) Ⅲにあてはまる言葉を考えて現代語で書きなさい。

飛びて去ぬ。女、「何にかあらん。雀の落として去ぬる物は」とて、^①寄り
て見れば、^{*3}ひさこの種をただ一つ落として置きたり。

「持て来たるやうこそあらめ」とて、取りて持ちたり。^{*5}「あないみじ、
雀の物得て、宝にしたまふ」とて、子ども笑へば、^{*6}「さはれ植ゑてみん」
とて、植ゑたれば、秋になるままに、いみじく多く生ひ広がりて、なべ
てのひさごにも似ず、^{*7}大きに多くなりたり。女よろこび興じて、里どな
りの人にも食はせ、^エ取れども取れども尽きもせず多かり。

(『宇治拾遺物語』)

- *1 いたく〓ひどく。 *2 ありし雀〓例の(以前私が助けた)雀。
*3 ひさご〓ひようたん。 *4 やうこそあらめ〓わけがあるのだろう。
*5 あないみじ〓まあ、滑稽だ。 *6 さはれ〓何はともあれ。
*7 全ての〓普通の。

問一 ― 線①「寄りて見れば」と動作主が同じものを、文中

の〓線ア〓エのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

問二 本文の展開について、次のように「ノート」をとりました。これ
を読んで、あとの(1)〓(4)に答えなさい。

「ノート」

- 1 鳴く声があるので出てみると、以前女が助けた雀がいた。
- 2 女は、雀を見て、「忘れず来たるこそあはれなれ(〓A)〓」
と言った。
- 3 女は雀が飛び去るときに落としていった「B」を見つけた。
- 4 女は、雀が「B」を持つて来たのには何かわけがあるの
だろうと考え、何はともあれ「植ゑて」^②みることにした。
- 5 すると秋には、多く生え広がり、大きい実がたくさんなった。
- 6 実は、「C」にも食はせ」^③たが、「取れども取れども尽きも
せず」多かった。

(1) A にあてはまる現代語訳として最も適当なものを次のうち
から選び、記号で答えなさい。

- ア 忘れて来てしまうとはなんとおろかなことだ
イ 忘れられずに来るとはかわいそうでならない
ウ 忘れずにやって来てくれるとは感心なことだ
エ 忘れずに来てくれたのに悪いことをした
- (2) B・C にあてはまる言葉を、Bは五字、Cは六字で文中
からそれぞれ書き抜きなさい。

B	C

★
(3) ― 線②「植ゑて」を現代かなづ
かいに直し、ひらがなで書きなさい。

(4) 「ノート」のまとめとして、この文章のあらすじを書きます。あ
らすじとして最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えな
さい。

- ア 以前助けた雀がひようたんの種をたくさん持ってきたので、
女は喜んでそれを里の人たちに分けてやった。
- イ 以前助けた雀がひようたんの種を持ってきたので、女が土に
埋めてみると、秋に、食べきれないほど多くの実をつけた。
- ウ 以前助けた雀がひようたんの種を持ってきたので、子どもた
ちは感心してその雀を飼ってやることにした。
- エ 以前助けた雀が口から露を落として飛び去ると、そこからひ
ようたんの芽が出て、秋には多くの実がなった。